

会派公明党 視察研修報告書

期間	令和元年8月22日～令和元年8月23日まで
----	-----------------------

調査地選定理由
① 千葉県鎌ヶ谷市 【選定理由】{通年議会}を今年度から導入し、今までの取組みを参考にするため、視察しました。本市も通年議会を取り入れるべきかを判断するため。
② 奈良県田原本町 【選定理由】市民の足を確保するために、「タワラモトンタクシー」の仕組みを調査し、本市の高齢者の足の確保の施策の参考に視察しました。

<行程表>

年 月 日	行 程
8月22日	ANA HD14便 新千歳ー羽田 JR 羽田ー鎌ヶ谷 千葉県鎌ヶ谷市役所 14時視察テーマ「通年議会について」 ホテル 東横INN新鎌ヶ谷駅前
8月23日	JR 鎌ヶ谷ー品川(新幹線)ー京都ー田原本 奈良県田原本町 14時視察テーマ「タワラモトンタクシー」 JR 田原本ー奈良 バス 奈良ー伊丹空港 ANA779便 伊丹ー新千歳

<視察者>

木村真千子議員、 藤田 豊議員、大迫彰議員

	報告書作成者	藤田 豊	
<p>視察対応者 鎌ヶ谷市議会議員 泉川ようじ 「通年議会」に関する説明</p> <p>1. 通年議会とは会期を1年とし、その間は、議会の判断において必要に応じて会議を開けるようにする制度である。</p> <p>2. 通年議会を実現する方法</p> <p>(1) 従来の「定例会」の運用に工夫を加えて実現する方法 21市で導入(鎌ヶ谷市もこの方法) 定例会は、限られた期間(会期)で、議案を集中的、効率的に審議するための制度。 ○通年議会は、定例会の運用に工夫を加えることでも実現。 ○1年間に召集する定例会の回数は、各自治体が定める。 ○「通年議会」は、定例会の回数を年1回とし、会期を約1年とする運用で実現可能である。 ○1年間は、長の招集によらずとも、議会の判断で開くことが可能となる。</p> <p>(2) 新たな「通年の会期」を採用する方法(平成24年の地方自治法改正で創設) 8市で導入 ○「通年の会期」とは、定例会、臨時会の区分を設けず、条例で定める日から翌年の当該日の前日までの1年を会期とする制度。 ○次の事項を条例で定める必要がある 会期の始期 定例日(定期的に会議を開く日。定例日以外にも、随時開催は可能) ○長の招集は、実質的に4年に1回(改選時)。2年目からは、みなし招集となる。 ○4年間は、長の招集によらずとも、議会の判断で会議を開くことが可能となる。</p> <p>主な質疑のやり取り</p> <p>問 議長権限が強化されるとは、具体的にどのようなものか。</p> <p>答 議案の提出に合わせて、議長の権限で議会を招集することができるようになった。議会主導の判断が可能となった。</p> <p>問 地域での議員活動の時間が減少するおそれあるとのことだが、実態は。</p> <p>答 常に議会が招集されるわけではないので、大きな負担になっている状態で</p>			

はない。

問 執行部の行政能率への影響といった懸念があるとのことだが、どのような内容か

答 議会事務局においては、通年議会を導入にあたり、条例の改正が伴うために、その作業の多くの時間が取られた。通年議会になると、議会事務局に今までとは違う忙しさが加わり、現在の職員数では職員の時間外勤務は増えると思われる。

視察の所感

本州の各議会で、「通年議会」を導入する自治体が増えている。鎌ヶ谷市の議長の感想としては、議員活動は年4回の定例会だけで、それ以外は自由な時間との認識があったが、通年議会の導入により、1年間を通して議員活動をするという意識と緊張感が生まれたことは、大きな効果があったと思うとの話がありました。本市でも「通年議会」を検討する価値があると実感した視察でした

「タワラモトンタクシー」 報告者 藤田 豊
奈良県田原本町町長公室総合政策課課長 西浦至広
事業内容の説明

奈良県田原本町は2018年度、移動に困難を伴う人の外出を支援するため、民間タクシーの初乗り運賃を補助する「タワラモトンタクシー」事業を開始し、大きく成果を上げています。従来のデマンドタクシー事業と比べ、1ヶ月の平均利用回数は5倍に増加。予約の競合が少なく、近所同士で自主的に乗り合うケースもあります。

田原本町は2010年から、買い物や通院などの移動に困難を伴う人を支援するため、乗り合いのデマンドタクシーを運行してきました。登録者は200人を超え、1日の平均利用者は24人（2017年度）だった一方で、年に一度も利用しない登録者が全体の8割を占め、利用者の偏りがみられました。

原因是利便性が良くないこと。町が行った登録者へのアンケートなどでも、3時間前までに予約が必要な点や、最大2台と少ない運行台数、停留所までの移動負担に対し改善を求める声が目立った。利用していた住民は「午前中の早い時間に利用したい場合、前日に予約しなければならなかった」との感想が多くありました。

昨年7月にデマンドタクシーに替えて開始した「タワラモトンタクシー」事業は、町内の民間タクシー会社4社で使えるチケットを町が独自に発行し、タクシーの初乗り運賃680円を助成する仕組みです。70歳以上の高齢者や妊婦、未就学児に年間24枚、身体障がい者らに年間12枚のチケットを配布します。利用時間は午前8時から午後6時（月曜日から土曜日）で、複数での乗

り合いや、発着のいずれかが町外の場合も補助対象になる。事業名は同町公式キャラクターのミニブタの名前からとりました。

田原本町によると、事業開始直後にデマンドタクシーの登録者数を上回り、昨年度はそのうち6割超が実際に乗車。月平均の利用回数はデマンドタクシーの5倍で推移し、成果を上げた背景には、町内を巡回するバス路線がないことや、鉄道駅のある中心部から半径約3キロに収まる“コンパクトな町”の特色が生かされたことも大きい都の説明でした。

視察後の感想

北広島市は、現在、団地地区と東部地区の中央バスを利用できる70歳以上の住民を対象に、年間2,000円のバス利用券を発行しているが、この地域以外の人には、恩恵が無く各地域より、同様のサービスの提供を求める声が多く出ている。この期待に応えるには、「タワラモトンタクシー」の施策は、本市でも実施可能と考えられる。ただし、田原本町と条件が違うのが、市内に2社の路線バスが運行していることあることから、田原本町と同じやり方ができるとは限らないが、大いに参考となる施策であると思いました。